

保育計画成果報告書

法人名	株式会社チャイルド・スマイル
施設名	小規模保育園 ちいはぐ・飛田給
報告者（役職）	浦野 嘉美（施設長）
住所・連絡先	東京都調布市飛田給 2-21-2 YAHIRO Buil. 1F
	☎ 042 - 485 - 0338
	E-mail tobitakyu@csmile.co.jp

○タイトル（保育計画）

衛生面の整った環境の中で、心身ともに健やかな成長を育もう

○主な助成備品

ベビーシート（壁設置型オムツ交換台）

1. 保育計画策定の目的

当園は、0～2 歳児、定員 18 名の小規模保育園です。園の名前である『ちいはぐ』には、「地域で子どもを育み、小さいハグがいっぱいな保育園」という想いが込められています。小規模の特性を活かして、一人ひとりの子どもと保育者の温かい触れ合いを大切にしたい保育を行っています。一方で、園内の環境は狭く、各クラスの保育の工夫と連携、空間の確保、動線を考慮した環境づくりには課題を感じていました。

その課題の 1 つであり、日々の中で困難を感じていたことがトイレです。子どもトイレはスペースも狭く、便器も 1 つしかありません。0～2 歳児全員で、このトイレを使用する状況は、排泄が重なると、混雑や順番待ちといった問題が起こります。また、トイレの場所が 1 歳児保育室の横にあるため、特に食事時の排泄には、衛生面にも問題を感じていました。

そこで、子どもたちが、不快を感じることなく衛生的で、心地よい環境の中で心身ともに健やかに育つことを目的とし、今回改善策として、0 歳児保育室にベビーシートを設置するという考えに至りました。

2. 具体的な実施内容

ベビーシートの設置に当たり、0 歳児保育室全体の環境構成を見直しました。限られた空間の中で、どうしても動かすことのできない水道の位置を軸にして、まず食事のスペースを決め、その他ロッカーの位置、収納棚の位置、あそびのスペースなどを考慮していき、大幅な環境改善を行うことになりました。最終的な設置場所として、部屋のコーナーであり食事スペースと対向側になる場所に決定。ベビーシートの左側、幅 30 cm 程の隙間に専用の収納棚、右側には子どもたちのロッカーを置き、手を伸ばせば新しいおむつ、着替えが届く位置となるよう無駄のない動線も確保することができました。また、ベビーシートは壁に固定さ

れた据え置き型で、使用時以外はシート部分を畳むことができるため、保育のスペースにも
圧迫感を感じることなく過ごすことができます。

同時に、子どもトイレには、ロールカーテンを設置し、使用時にはカーテンを下すように
しました。使用中の子どもも、保育室側の子どもたちも互いに心地よく過ごせる環境が整っ
たと感じています。



3. その成果と評価

1 つ目は、子どもトイレの混雑が緩和されたこと、2 つ目は、保育室の環境が整ったこと、3 つ目は、衛生面・安全面が整い、子どもたちがより心地よく過ごせるようになったこと、以上 3 点が大きな変化として挙げられます。

〈0 歳児〉

トイレへの移動が減り、子どもたちも安心して過ごし、おむつ替えも子どもたちを待たせることなく、落ち着いてできるようになりました。同時に大人の目も確保され、活動の節目であってもばたばた慌てることなく安全面でも安心を感じています。収納棚、ロッカーの位置も考慮したことで、一人の保育者があちこち動かずに動作でき、衛生的に素早く行えることも成果の 1 つです。また、高さがあることで、おむつ替え中に他児が排泄物に触れる心配もなくなりました。

〈1 歳児〉

0 歳児がクラス内でおむつ替えができるようになり、保育中の出入り、食事中的使用も減り落ち着いて過ごせるようになりました。特に衛生面については、子どもたちも不快なく、集中できる楽しい食事時間が保障されました。食事中的排泄がある場合でも、ロールカーテンを下ろすことで、それほど気にならずに食事を続けられます。

〈2 歳児〉

3 つのクラスで子どもトイレを共有していた頃に比べ、1・2 歳児クラスでの共有に絞られ、保育活動から排泄、食事への導線と時間の調整がスムーズになりました。互いに待たせることもなくなりました。特にトイレトレーニングが始まる 2 歳児にとっては、自立へつながるポイントとして、一人ひとりのリズムに合わせて、トイレが使用できるということが大切であり、そのリズムを保障できるようになりました。

4. 今後の課題と展望

小規模保育園は、限られた狭い環境ではありますが、工夫はいくらでもできると思っています。子どもたちにとって生活の場、あそびの場である保育室が、安全安心、清潔で居心地の良い場所となるために、今回の取り組みは、環境を見直す大きなチャンスになりました。今後も、「環境」はもちろん、保育を取り巻く様々なテーマで、職員一人ひとりが日々の保育の中で感じ、考え、よりよくしていくことを続けていきたいと思っています。

以上